

Dr. ゴルゲ『新ドイツ帝国主義』の考察

北村 喜義*

A consideration over Dr. Richard Sorge, “THE NEU GERMAN IMPERIALISM,”

Kiyoshi Kitamura *

Received October 29, 2004

Abstract

Richard Sorge was born in 1895 and executed in 1945 as a secret agent (Kundschafter) of Soviet Union in Japan. He studied in Kiel and Hamburg the political science and took the degree of doctor. In the same year he became a member of KPD.

For Sorge “The New German Imperialism,” is the imperialism which developed in the period of what is called “relative stabilization,” in the year from 1924 to 1928. This book of his has five parts: I. The economical base of the new German imperialism. II. The accomplishment of economical base in the new politics of German capital. III. The classes and strata and the new German imperialism. IV. The stand of the second International and of the German Social Democrat generally to the imperialism and specially to the new German imperialism in the after war period. V. The risk of war (Kriegsgefahr) and the fight against it.

As concerns the monopolistic character of German capital, it must be made sure that the capital-export and the division of the world by the German capital were scarcely or not at all fulfilled.

Sorge classified the capitalists as follows : 1. the monopolistic financial capital. 2. its big agricultural capitalistic wing. 3. the non-monopolistic wing of the wide-manufacturing industry.

The financial capital became the organizer of the fascist bands, particularly of “Steelhelmet,” the biggest one among them. This Steelhelmet was the harder core of the fascistic small bourgeois and tried to penetrate into the working class.

It is undoubted that this book has a big documental worth at the same time.

* 未来創造学部
School of Future Learning

Richard Sorge, „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“ Carl Hoym, Berlin 1928.
 所収：リヒアルト・ゾルゲ 『二つ危機と政治』 勝部元・北村喜義・石堂清倫 共訳著
 1994年。御茶の水書房。北村喜義 担当：119～339頁 「新ドイツ帝国主義」

I 『新ドイツ帝国主義』の意義と内容

1 リヒアルト・ゾルゲ Richard Sorge 略歴 と『新ドイツ帝国主義』

- (1) リヒアルト・ゾルゲは、現アゼルバイジャン AZERBAIJAN 共和国のバクーBaku (BAKI) で1895年10月8日にドイツ人石油技師を父に、ロシア人を母にして誕生。1898年にゾルゲ一家はベルリン郊外に移転している。1914年から1918年に至るまで志願兵としてドイツ帝国軍の西部戦線と東部戦線に投入され、1916年には負傷兵としてベルリン大学において哲学と経済学の研究を許可された。

1917年にキール Kiel でドイツ独立社会民主党 (Unabhängige Sozialdemokratische Partei Deutschlands : U S P D)¹⁾ に加入し、帝国主義反対闘争に積極的に参加した。そして1919年には在学するハンブルク Hamburg 大学法学・国家学部において賃金政策に関する学位論文により政治学博士号を取得している。同年にドイツ共産党 (Kommunistische Partei Deutschlands : K P D) に入党しマルクス主義運動のオルガナイザーとして炭坑、党学校、経営評議会、「社会研究協会」²⁾ などで活動した。

1924年末にはモスクワに移動し、1928年までコミンテルン情報部で活動する。定期刊行物に多数の論文を寄稿している。1927年に極東における政治・経済・軍事情勢を研究している。1928年コミンテルン第六回大会に出席した。

- (2) 1929年から1941年逮捕に至るまでの間、ソ連の諜報員 (赤軍第4本部：指導者はベルジン将軍 General Jan Karlowitsch Bensin, さらにウリツキー将軍 General Semjon Petrowitsch Uriziki : 共にスターリンにより粛清) として中国と日本で諜報活動に従事している。すなわち、1929年末に上海に移動し、1930年から1932年にかけて諜報団を結成し活動したのである。

次に1933年には東京に移動し、ラムゼイ Ramsay 諜報団を結成。1935年に満州と内蒙古を旅行している。そしてコミンテルン第七回大会 (モスクワ) に出席した。この間にブルジョア雑誌に多数の論文を寄稿している。

1) 1914年8月4日の帝国議会提出第一回戦争予算案50億Mに始まる数次にわたる戦争予算案へのSPDの賛成投票路線に反対するグループが1917年4月に Gotha にて党創設大会。143名出席。その中の15名が帝国議会代議士 (Protokol über die Verhandlungendes Gründungsparteitags der USPD vom 6 bis 8 April 1917 in Gotha., S. 18.)

2) Gesellschaft für Sozialforschung. 1922年に、第一回会議が Thüringen 州の Ilmenauw で開催された。参加者は Karl August Wittvogel, Karl Korsch, Lukács György, Kristiane Sorge, Konstantin Zetkin, Friedrich Polok そして日本人留学生福本和夫などである。

1936年にフランクフルター・ツァイトング Frankfurter-Zeitung の日本通信員となり、1941年にはドイツの対ソ侵略作戦の詳細をモスクワに報告し、ヒトラーの対ソ電撃作戦計画を挫折させしめた。しかし、1941年にラムゼイ・グループが逮捕され、そして1944年11月7日（ロシア革命第27周年記念日）にソ連諜報員として尾崎秀実と共に巣鴨刑務所にて処刑されたのである。

- (3) ドイツ共産党員時代～後にソ連共産党に党籍移行～のゾルゲの主業は共産系新聞への執筆活動であり、彼の学術活動の中心領域は資本主義分析の政治経済学である。最初の著書は『ドーズ協定とその影響』„Das Dawes-Abkommen und seine Auswirkung“ 1925. Hamburg であり、そして第二冊目が『新ドイツ帝国主義』„DER NEUEDEUTSCHE IMPERIALISMUS“ (1928. Hamburg-Berlin) である。出版社はレーニン『帝国主義論』³⁾のドイツ語初版と同じカール・ホイム Carl Hoym 社であり、発行部数は5000であった。

KPDにおける『新ドイツ帝国主義』の位置付けであるが、KPDのMASCH (Marx-Lenin Abendsschule: マルクス・レーニン夜間学校) の指定教科書はレーニンの『帝国主義論』とゾルゲの『新ドイツ帝国主義論』であり、当時の多くのKPD党員は、まず最初にゾルゲの本書を読んで刺激され、そして次にレーニンの著作の根本的意義の理解に進んだと考えられる。⁴⁾

- (4) そこでまず、ゾルゲの『新ドイツ帝国主義』が彼自身の運命に与えた影響を考察してみよう。1928年モスクワ刊行ロシア語版の序文は アウグシュト・タールハイマー August Thalheimer (コミンテルン綱領草案執筆。KPD指導者) によるものであった。そのタールハイマーはブランドラー Brandler と共に1921年と1923年のドイツ革命失敗の責任を問われ、党内右派の烙印を張られ、コミンテルン Kommunistische Internationale: Komintern から追放されている (Thalheimer と Brandler はローザ・ルクセンブルグ Rosa Luxemburg の系統)。これ以後コミンテルンの公用語はドイツ語からロシア語に変更されており、コミンテルンにおいてはロシア革命・ボルシェヴィキ型支持を左派とし、西欧型志向を右派とされたのである。このこともあってかゾルゲは重点を理論活動から情報活動に移動させている。⁵⁾

3) Lenin: 『資本主義の最高段階としての帝国主義』 „Der Imperialismus als höchstes Stadium des Kapitalismus“ (Lenin 序言。1920年7月)。ドイツ語初版文献目録では「資本主義の最新段階としての帝国主義」 „Der Imperialismus als jüngste Etappe des Kapitalismus“ (1921年出版) の表題となり「最高段階」は「最新段階」に変更されている。

4) Lenin 『帝国主義論』(ドイツ語第二版出版)の1926年から第三版の1930年までの販売状況は、Sorgeの本書が出版された1928年以後に急増している。

5) 石堂清倫『異端の視点』勁草書房、1987年、325～327頁

2 『新ドイツ帝国主義』の六意義

- (1) 本書の考察範囲に含まれる19世紀中期からヴァイマル期もしくは社会主義ロシアの揺籃期にかけての状況分析は、ソ連崩壊とロシア復活がもたらす現在の国際構造の理解に資するものである。
- (2) ヴァイマル期のドイツ帝国主義だけでなく現在のそれに対する考察を深化させるものである。
- (3) レーニン『帝国主義論』の五指標⁶⁾の全てが存在しなくとも、新形態の帝国主義の出現と存立が可能なことを、さらにドイツ帝国主義は新しい条件の下における新しい帝国主義であることを詳細に論証している。そして資本主義の新段階の基本的傾向を析出している。
- (4) 敗戦国ドイツの資本主義の残存骨格を土台にドイツ金融資本・米国借款・フォード型生産合理化による経済再建と新たな性格の資本の集積を分析している。そしてこの経済的基盤に対応する政治的上部構造としてのファシズムの登場を指摘している。
- (5) ナチズムは戦勝国の強制による奇形的帝国主義（資本輸出弱体：植民地欠如）の必然的形態であると指摘している。⁷⁾
- (6) 統一戦線の課題そして平和のための闘争の意義をあらたに強調している。

3 『新ドイツ帝国主義』の内容限定と構成

ゾルゲの考察対象は「新ドイツ帝国主義（1924-28年）」の経済基盤・外交政策・階級・国内政策・SPD・戦争阻止闘争の諸問題であり、帝国主義の純理論的側面を対象としていない。したがって、ローザ・ルクセンブルグの資本蓄積と帝国主義に関する理論的見解⁸⁾にも、

6) Lenin, N., „Der Imperialismus als jüngste Etappe des Kapitalismus“ (1921) S.132ff.

『帝国主義論』5 指標 ①独占段階の資本主義 ②銀行資本と産業資本の結合による金融資本の寡頭支配 ③商品輸出とならぶ資本輸出 ④国際的資本家団体の結合 ⑤世界分割の完了段階

「発展不均衡の原則」（世界分割完了段階における致命的特質）

①帝国主義時代においてはあらゆる地域、経済部門の間に不均等な発展が支配し資本主義体制が組織化され得ない ②帝国主義諸国間の対立、戦争の不可避性、一国社会主義革命成功の可能性

John Atkins Hobson (1858-1940) ボーア戦争取材。独立労働党ブレン。軍国主義と帝国主義を批判。「経済学の異端者」を自称。「ブルジョア的改良主義と平和主義の見地」(Lenin)

“Imperialism”, 1902, 4ed., 1948.

「帝国主義論」5 指標 ①資本集中 ②経済的寄生性 ③寡頭支配 ④軍国主義 ⑤資本主義発展の必然段階ではなく弊害ある一政策

「植民地への寄生性」 ①不生産的軍需産業の発達 ②政治的軍事的要因の先行 ③国内過剰資本による海外市場開拓と資源確保 ④国内の資本主義的要素と封建的要素との矛盾対立の対外転化

7) 日本政治学におけるドイツ・ファシズム研究は連続・不連続のFischer論争にとらわれ、この面からの検証が欠落と思われる。参照：Fritz Fischer, „Griff nach der Weltmacht – die Kriegszielepolitik des Kaiserlichen Deutschland 1914/1918“, 1961, S. 122-150. 村瀬興雄 監訳『世界強国への道 I』（岩波書店）1972年

8) Rosa Luxemburg., „Die Akkumulation des Kapitals“, Berlin 1913, 446 S. ff.

ブハーリン Bucharin がその著書『帝国主義と資本蓄積』⁹⁾の中で試みたローザ・ルクセンブルグとの論争にも、シュテルンベルグ Sternberg の著作『帝国主義』¹⁰⁾に対しても見解は表明されていない。¹¹⁾しかし、帝国主義の特質が紛争と戦争を生み出すというローザ・ルクセンブルグ、ブハーリン、シュテルンベルグの見解に対してはゴルゲも一致している。

次に本書の構成は以下の通りである。

序論 (5頁)	問題提起の概要 (5頁)
第一章 「新ドイツ帝国主義」の経済的基盤 (11頁)	
第一節 独占化 Monopolisierung (12頁)	第二節 金融資本 Finanzkapital (27頁)
第三節 金融寡頭制 Finanzoligarchie (30頁)	第四節 国際的独占団体の発展 (32頁)
第五節 資本輸出 Kapitalexport (38頁)	第六節 世界分割への参加 (43頁)
第七節 ドイツ帝国主義の経済的基盤の特徴 (43頁)	
第二章 ドイツ資本の新政策における経済的基盤の貫徹 Durchsetzung (58頁)	
第一節 ドイツ帝国主義の束縛 Fesseln (58頁)	
第二節 ドイツ外交政策の新方針 (65頁)	
(1) 関税政策と通商政策 Zoll-und Handelspolitik (65頁)	
(2) ロカルノ Locarno 協定, ベルリン条約, トワリー Thoiry 条約, 国際連盟の利用 (70頁)	
(3) 新ドイツ外交政策の実行 (74頁)	
①軍事上の管理と軍備制限一般に反対する闘争 (76頁)	
②国境修正の問題 (80頁)	③植民地獲得闘争 (84頁)
④ドーズ案 Dawes-Plan に対する闘争 (86頁)	
第三節 ドイツ外交政策の帝国主義的性格 (89頁)	
第四節 「新ドイツ帝国主義」の紛争を生む性格 konflikterzeugender Charakter (96頁)	
第三章 階級および階層 Klassen und Schichten と新ドイツ帝国主義 (116頁)	
第一節 資本家層 kapitalistische Schichten ドイツ帝国主義 (117頁)	
第二節 反帝国主義の階級およびグループと「新ドイツ帝国主義」(122頁)	
(1) 小ブルジョア階級 Kleinbürgertum (122頁)	
(2) 小農階級 Kleinbauernschaft (125頁)	
(3) 労働者階級 Arbeiterschaft (127頁)	
第三節 「新ドイツ帝国主義」の国内政策 Innenpolitik (139頁)	

9) Nikolai Ivanovich Bukharin., „Der Imperialismus und die Akkumulation des Kapitals“ (Unter dem Banner des Marxismus, 1. Jahrg., I und II)

10) Sternberg., „Der Imperialismus“, Berlin 1926. Malik-Verlag, Berlin.

11) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 9.

第四節 ドイツ国内政策の将来における発展 (144頁)

(1) 小ブルジョア階級に関して (144頁)

(2) 労働者階級に関して (145頁)

第四章 帝国主義一般、特に戦後の新ドイツ帝国主義に対する第二インターナショナルおよびドイツ社会民主党の態度 (152頁)

第一節 戦後帝国主義に対する第二インターナショナルと社会民主党 (153頁)

第二節 ドイツ社会民主党と新ドイツ帝国主義 (168頁)

第五章 戦争の危険 Kriegsgefahr とそれに対する闘争 (177頁)

第一節 戦争の危険 (177頁)

第二節 第二インターナショナルと帝国主義戦争 (179頁)

第三節 戦争の危険と戦争とに対する革命的闘争 (185頁)

4 ドイツ帝国主義 3 区分とその意義

ゾルゲはドイツ帝国主義の発展過程を次のように述べている。

「この変化は、生産力と新たな膨張地域という点に関して、なおも強力な発展の可能性を持って向上する新鮮な帝国主義 (1919年以前の段階) から、異常に高度に発展した殆ど絶対的な独占の上に立脚し、一段とひどい腐朽 Fäulnis かつ停滞の相貌を示さざるを得ない別の帝国主義への変動である。帝国主義時代における資本主義の反動的性格が、まだ新鮮で若々しい帝国主義の進歩的な側面を排除し、ますます広範な部分を占めていくに違いない。」¹²⁾ (傍線はゾルゲによる)

ここではドイツ帝国主義は三段階に区分されている。すなわち、

(1) 1919年以前の段階を「新鮮な帝国主義」„frischer Imperialismus“

(2) 1919年から1923年¹³⁾ までの段階を「毀損された帝国主義」„verstümmelter Imperialismus“

(3) 1924年¹⁴⁾ から1928年¹⁵⁾ までの段階を「新ドイツ帝国主義」„neuer Deutscher Imperialismus“

12) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 7.

aufstrebender frischer Imperialismus mit noch mächtigen Entwicklungsmöglichkeiten in bezug auf die Produktivkräfte und neuen Expansionsgebiete.

13) 「1923年」の3メルクマールは①工業生産の戦前水準回復 ②通貨安定措置 ③金本位制度復活であり、それ以後28年まで経済好況

14) 「1924年」に Dawes Plan による Versailler Friedensvertrag の換骨奪胎が実現。

15) 「1928年」までとされたのは『新ドイツ帝国主義論』の出版が1928年であり、ゾルゲには現時点であるということもある。しかし、1924年に始まる「相対的安定」期 Periode der sogenannten „Relativen Stabilisierung“ は1928年に終結し、1929年以後1932年まで資本主義諸国は以前の経済恐慌に比を見ない深刻な史上初の文字通りの世界恐慌に襲われた。

そしてゴルゲは1919年から1923年の間の「毀損された」ドイツ帝国主義の3特質を次のように分析している。¹⁶⁾

- (1) たとえ植民地が、そして1914年以前に輸出された資本が、さらにはその軍事力が完全に、もしくは大部分、喪失されていたにしても、1919年から1923年の間のドイツには帝国主義の重要部分が存在していた。
- (2) 帝国主義的基盤は独占という形態に最も強く現れる。そしてこの独占は、ドイツ国内の各方面でその勢力を増大させていたが、その巧妙な政策によって、少なくとも労働組合そして社会民主党とは対立していなかった。
- (3) さらにドイツの帝国主義的基盤は余りにもひどく傷付けられすぎたので、上部構造、すなわち、その帝国主義的な外交政策においても、またそれに対応する対外的な経済政策においても帝国主義を実行できなかった。

かくしてドイツは、発展する「新鮮な帝国主義」(1919年以前)から「毀損された帝国主義」(1919年～1923年)を経て絶対的独占の反動的な「新ドイツ帝国主義」(1924年～1928年)に至るのである。すなわち、1924年以後のドイツ帝国主義はその敗戦による崩壊と障害の克服を目指して闘争し、再び帝国主義的發展を目指し¹⁷⁾、外交政策の若干の分野においては成果さえ収めたとゴルゲは分析している。¹⁸⁾

次に1919年から1923年までの「毀損された帝国主義」の資本主義世界における意義を考察してみよう。Sorge は1924年から1928年の間のいわゆる「相対的安定期」に発展した「新ドイツ帝国主義」を1919年から1923年までのいわゆる「毀損された帝国主義」と対照的に分析している。それでは、なぜ「毀損された帝国主義」となったのか？ やはり毀損の端緒はベルサイユ条約 Versailler Friedensvertrag の九項目¹⁹⁾によるドイツのモロッコ Marokko 化²⁰⁾に始まる。

さらにその毀損が毀損する端緒は、戦勝国がドイツを豊富な搾取対象²¹⁾として見ていたと同時に、とりわけドイツがロシアで遂行された革命と結びついて世界革命に火をつけられるような革命の震源地となる危惧を持たれていたことに在った。²²⁾

16) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, 69. S. ff.

17) 先行する全ての他の社会体制と対比した場合、資本主義、したがって衰退期の資本主義も、そして帝国主義もその生産諸力に関する発展の可能性は衰えるものではない。『共産党宣言』は指摘している：「ブルジョアジーは、生産用具を、したがって生産諸関係を、したがって社会的諸関係全体を、たえず変革せずには存立することができない。」(マルクス・エンゲルス全集、第四巻、465頁、邦訳、大月版、第四巻、478頁)

18) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, 58 S. ff.

19) ①フランスに対するアルサス・ローレンをはじめ、ベルギー、ポーランド、チェコスロヴァキア、リトアニアなどへの領土割譲 ②ダンツィヒ自由市の設定 ③植民地および海外利権の放棄 ④ザール河流域その他の人民投票による帰属決定 ⑤ライン左岸の武装禁止 ⑥オーストリアの独立保障 ⑦陸海軍の制限と空軍の保有禁止 ⑧ドイツの戦争責任と賠償義務(1320億金貨マルク) ⑨条約履行の保障として連合軍隊によるライン左岸の15年間占領

20) 参照：H. Morgenthau (F. D. Roosevelt 大統領財務長官) Plan. 第二次大戦後の対独処理案。1944年9月ケベック会談に提出。内容は、ドイツの徹底的非武装化・戦争能力除去・重工業復興水準抑制・ドイツの田園国化。しかし、大戦末期に Truman が放棄。

5 「新ドイツ帝国主義（1924-28年）」とドーズ案（1924年）

ゾルゲは、ドーズ案が「新ドイツ帝国主義」に与えた3影響を分析している。²³⁾

- (1) 8億金M外資借款によるドイツ経済再編とドイツの通商自決権承認
- (2) アメリカによるドーズ借款の保証 つまり、対ドイツに対する直接干渉にはアメリカの許可が必要。
- (3) 1919年から1923年の間のドイツは苛酷な条件を押しつけられていたが、1924年から1928年の間のドイツに対して過酷な命令をするものは不在。それどころか、イギリスとソ連との間の紛争の先鋭化につれて、ドイツ資本主義は、各国資本主義グループの経済競争において再び重大要素に成長。そしてこのことを特にイギリスは1926年に強く思い知らされる羽目に陥る。

つまり、1921年と1923年のドイツにおける労働運動の激化を畏怖した英米資本はドイツ資本への救済を緊急要件としたのである。

それではイギリスが強く思い知らされたこととは何であろうか？ それは二つの独ソ条約である。すなわち、1922年4月のラッパロ条約 Rapallo Vertrag と1926年4月のベルリン条約 Berliner Vertrag である。その目的はドイツの対ソ接近であり、具体的内容は、ドイツによるソヴィエト政権承認、独ソ外交関係再開、ソ連の対独賠償請求権放棄、独ソ相互最恵国待遇などであった。

いまここで、各国の対ドイツ長期借款（1924～31年）を表示しておく。

額面価額 100万M 1ポンド=20.43M

	アメリカ	%	オランダ	イギリス	スウェーデン	スイス	フランス	その他	合計	%
ドーズ・ヤング公債	875	36.5	174	490	152	136	475	97	2399	25.2
州・地方団体他	860	45.8	256	210	530	53	-	10	1919	20.1
公益事業	1073	77.5	115	48	3	114	-	32	1385	14.5
都市銀行他	188	75.2	30	6	4	8	-	14	250	2.6
民間債務者	2269	63.2	599	346	108	201	-	69	3592	37.6
合計	5265		1174	1100	797	512	475	125	9545	100
%	55.2		12.3	11.5	8.3	5.4	5.0	1.3	100	

H. Feis, „Europe : The World Banker“ 『国際投資論』日本評論社 1970年, 253頁

21) 1921年1月 パリ会議にてドイツ賠償総額「天文学的数字」2260億M。5月ロンドン会議にてドイツの賠償総額1320億M

1922年 西側からの圧迫による国際的孤立のドイツはソ連に接近

1923年1月 ドイツの賠償不履行を理由としてフランス・ベルギーによる Ruhr 工業地帯占領。
Cunno 内閣による受動的抵抗

1924年8月 Stresemann 内閣が Dawes Plan 8億金Mの外資導入

1930年1月 Young 案成立。賠償金は1210億金Mに確定。しかし、世界恐慌にて暗礁に乗り上げる

1932年 Lausanne 会議にて賠償金総残高を30億Mとする提案がなされたが批准されず

1933年 Hitler 政権樹立により、ベルサイユ条約による全ての義務を拒絶

【ドイツによる賠償支払履行】1918～24年 250億金M, 1924～31年 110億金M

【ドイツに対する外資提供】1918～24年 330億金M

かくして、ドイツ帝国主義の発展段階に対応して労働者と資本家の地位そして社会民主党や労働組合官僚に対する資本家の態度は変動していく。このことをゴルゲは次のように記述している。²⁴⁾

(1) 「毀損された帝国主義」(1919-23年) 段階:

シュティンネス Stinnes やヒンデンブルグ Hindenburg はレギーン Legien やエーベルト Ebert との労資協調に関する契約締結に満足

(2) 「新ドイツ帝国主義」(1924-28年) 段階:

社会民主党は、大工業家の提議に基づく労資協調の新理論を第二インターナショナルの理論家ヒルファーデング Hilferding を介して企業家階層に提案できたことに満足

II 「新ドイツ帝国主義(1924-28年)」の独占化

1 独占化 Monopolisierung の特徴と指標²⁵⁾

(1) 「毀損された帝国主義」(1919-23年)における独占化の特徴は以下の通りである。

- ① 生産段階の集積ではなくインフレーションを基盤とする集積 Konzentration
- ② 資本投資を目的とする投機事業は外国為替の入手と信用獲得のための一手段
- ③ 集積過程は工業資本と銀行資本とが融合して金融資本となる経路をとらず、逆に銀行資本をその地位から排除(1923年のインフレーション終結まで)
- ④ 形成された各コンツェルン Konzern は生産部門において独占的性格をそれほど持たず銀行資本からの独立を目指した。このコンツェルンによる国際独占体形成への参加は問題
- ⑤ 本来の意味での資本輸出は行われず資本流失(資本逃避として国内から外国への資本投資)がなされた。つまり、資本膨張ではなく資本の国外移動
- ⑥ 経済の安定(1923, 24年)につれインフレーションに基づく組織再編は完全に瓦解

(2) 戦前のシンジケート Syndikat, コンツェルン。戦後のトラスト Trust²⁶⁾

戦前の独占化の形態はシンジケートとコンツェルンであり、戦後の独占化はアメリカを見本としたトラスト形態をとった。シンジケートとカルテル Kartell の急速な発達もトラストに至る前段階のものであった。

① 戦前(1905年)のカルテルとシンジケートの数

石炭産業19 製鉄業62 化学工業43であり、組織形態は緩慢なものである。具体的には、クルップ Krupp, キルドルフ Kirdorf, シュティンネス Stinnes, テイセン

22) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 5.

23) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 5, 51-61., 70-74.

24) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 5.

25) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 13-15.

26) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 15.

Thyssen, ハニエル Haniel, シュトウム Stumm, クレクナー Klöckner, マンネスマン Mannesmann, フェニックス・ヴェルケ Phönix-Werke, ライン製鋼 Rhein-Stahl などである。しかし、クルップ以外は独占傾向はあるが戦後のそれと比較すれば小規模な集積にとどまっていた。

- ② 戦後の独占化の特質の第一は、トラストの発達。シンジケートをも支配する絶対的独占であり、第二は消費者あるいは国外競争相手に対する独占である。

(3) 高度集積の指標 (1925-26年)²⁷⁾

- ① 化学工業 会社数 629社 (内、コンツェルン：118社)
資本金合計 18億5300万M (内、染料工業：11億4700万M
コンツェルン：15億3300万M)
- ② 合計資本に占めるコンツェルンの割合は、カリ工業の98.3%、鉱業関係の97.3%、染料工業の96.3%、褐炭採掘業の94.5%、石炭採掘業の90.1%である。
- ③ 合計資本に占めるカルテルの割合は、製鉄業の80%、電気技術工業の86.9%、給水・ガス・発電業の81.5%、銀行の73.8%、外洋・沿岸航路業の80.9%である。

2 鉄鋼業の独占化²⁸⁾

敗戦前のシュテンネス、ティセン、クルップなどのコンツェルン独占資本は、ルール Ruhr の石炭とエルザス・ロートリゲン Elsaß-Lothringen の鉄鉱石との結合を基盤に成立していたが、敗戦によってエルザス・ロートリゲン地区のドイツ企業が強制接収されたこと、さらにザール Saal 地域の一部が割譲されたことにより、コンツェルン勢力は極端に弱体化し、金融資本はその独占基盤を喪失した。

そして敗戦後において各大企業の結合を、例えば、シュテンネスとキルドルフとの相互補完による大トラストの形成を可能にしたのはインフレーションであった。

(1) 粗鋼業における独占化

【粗鋼連合 Rohstahl-Gemeinschaft】がドーゾ案承認後の1924年11月に創設され、トラストではなく連合体であり、その特徴は次の通りである。

- ① ドイツの鉄鋼生産総量1400万 t の95%を占める1343万2000 t を生産
- ② 31企業集団 (殆ど大コンツェルン) を組織化 1926工場を包括
- ③ 生産割り当て・価格協定・販売協定を決定
- ④ 下位団体との緊密な生産協定によって製鉄産業と製鋼産業を独占的に規制

下位団体：棒鉄連盟 Stabeisenverband・厚板連盟 Grobblecheverband
鋼管連盟 Röhrenverband・鉄鋼製品連盟 Stahlwerksband

27) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 19. 『ドイツにおける1925年中期から1926年秋期までの集積運動』に関する国家統計局調査研究

28) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 12-22.

圧延鋼線連盟 Walzdrahtverband

(2) 特殊鋼工業における独占化

- ① 銅工業における集積化の事例は、マンスフェルト Mansfeld 製錬工場とヒルシュ Hirsch 製鋼AGとの合併があげられる。
- ② 鉄加工業界では機械製作トラスト【デマーグ Demag】が形成され、工場機械製作と起重機製作の分野での独占が成立し、鋼鉄トラストとの緊密関係が結ばれた。
- ③ 圧延鋼板・リノリウム工業・機関車・織物・錠前・時計・ボイラー・製粉・煉瓦・写真などの製造工業界においても独占的集積が進展した。

(3) 【粗鋼連合】【合同製鋼AG】【デマーグ】との相互補完協力体制の成立（1926年）

鉄加工業【デマーグ】は重工業の保護関税政策と価格政策に対する反対闘争を停止し、その見返りとして価格が特別優遇され、重工業による鉄加工業の併合が抑制された。しかし、納入品協定により鉄加工業の大部分は【合同製鋼AG】に従属することになる。

(4) 鉄鋼トラスト【合同製鋼株式会社 Vereinigte Stahlwerke AG】の成立

- ① 株式資本 8 億超（債務総額13億5100万M超）
1927年にはシャルロッテン Charlotten 製錬所、シュトーム Stumm コンツェルンを併合した。
- ② 海外資産としてポーランドにビスマルク Bismarck 製錬所、オーストリアにアルピネ Alpine 鉱山、スウェーデン・スペイン・ブラジルに各鉱山、オランダに製鋼所を所有した。
- ③ 高度工業化の地域における 2 トラストの中部ドイツ鉄鋼トラスト Mitteldeutscher Stahltrust とオーバーシュレージェン鉱山トラスト Oberschlesien Montantrust とともに緊密に連結し支配下に統括した。
- ④ 1926年における構成体コンツェルンの資本合計は 7 億7820万Mであり、代表的なものとして、ゲルゼンキルヒェン Gelsenkirchen 鉱業株式会社（自己資本：1 億3810万M）ドイツ・ルクセンブルク Deutsch-Luxemburg (9750万M)、ボッフム Bochum 連合 (5600万M)、製錬業株式会社 (440万M)、ティセン・グループ・フェニックス Phönix (3 億M)、ファン・デア・ツイペン Van der Zypen (2220万M)、ライン鋼鉄 (1 億6000 万M) があげられる。

-
- 29) 合同製鋼は、生産制限による独占価格の形成を目的として、規制品目を二種類に分類。鋼塊、レール、梁材などを製品Aとし、その生産量と価格を規制。棒鋼・線材・薄板・鋼管などを製品Bとして直接価格は規制せず生産量のみを規制した。
 - 30) この表は „Frankfurter-Zeitung“ 1926, Nr. 578. からの収録であるが、この時期以後にドイツの合同製鋼が大規模に拡大したことに留意しなければならない。
 - 31) ドイツ化学工業は19世紀後半に合成染料を中心に発達し19世紀末に世界染料市場を独占。20世紀初頭には BASF (Badische Anilin und Soda-Fabrik AG), Farbenfabriken vorm Friedrich Bayer & Co. AG, Hext AG など 8 大染料企業は競争制限による安定した高利益率を実現し、1925年12月に合同し単一企業 I.G.Farbenindustrie. A. G. が成立。(参照：工藤 章 『イー・ゲー・ファルベンの対日戦略』東大出版会、1992年、6 頁。)

- ⑤ 1926年における構成体コンツェルンは（自己資本：単位百万M）資本合計7億7820万M

(5) 持ち株（ドイツ重工業における絶対的独占の指標）と企業規模²⁹⁾

【合同製鋼AG】の持ち株 (%)		【合同製鋼AG】の規模	
ライン・ヴェストファーレン		会社所有地	1億2165万9344平方M
石炭シンジート	21.880	炭田面積	3億6000万平方M
銑鉄連合	43.141	石炭埋蔵量	53億 t
粗鋼連合	41.082	コークス生産量	900万 t
製品連合 半製品	50.711	鉱石埋蔵量	6億5000万 t
鉄道線路上部構造	47.416	14製鉄所（68高炉）年間生産量	1000万 t
形鋼	21.715	製鋼工場年間生産力	1200万 t
総合製品	40.956	圧延工場年間生産力	850万 t
棒鋼連合	34.372	会社所有鉄道	1244km
帯鋼連合	48.444	会社所有港	8
厚板連合	44.551	労働者および職員 Arbeiter und Angestellte	18万8068名
圧延鋼連合	29.877		
鋼線連合	23.569		
鋼管連合	50.198		

Ufermann., „Der deutsche Stahltrust“, Berlin 1927, S. 73-74.

(6) 米・独 鉄鋼トラストの比較³⁰⁾

1926年	アメリカ鉄鋼トラスト 【Steel Corporation】	ドイツ鉄鋼トラスト 【合同製鋼AG】
鉄鋼生産量	1700万 t	900万 t
銑鉄生産量	1300万 t	770万 t
石炭採掘量	2700万 t	3000万 t
労働者数	24万6573人	17万6000人
労働者住宅	28451軒	52000軒
高炉数	123炉	68炉
機関車数	1483輛	411輛
貨車数	62144輛	10000輛

3 化学工業の独占化³¹⁾

(1) イー・ゲン・ファルベン工業株式会社 I. G. Farbenindustrie. A. G.

- ① 1925年成立し第二次大戦終了まで世界最大の化学会社（株式資本10億M超³²⁾）である。
 ② 染料工業・化学工業の全体を包括した。具体的には、染料・薬剤・フィルム材料・電

気冶金・電解化合物・窒素製造・化学肥料・火薬・化学ガス・石炭液化・人造石油（ベンジン、アルコール）・人造絹糸に及ぶ。

- ③ ドイツ化学工業に占める割合は生産が35%、投下資本が50%、従業員数が30%であり、従業員数10万は世界でも GM, U S Steel, Standard Oil に次いで4位であった。
- ④ 人造窒素 Kunststickstoff のもつ意義は、硝石依存からの離脱による火薬工業の発展とカリ岩塩・磷酸塩・人造窒素の混合肥料原料化による国際カリ・トラストへの参入である。
- ⑤ 人絹工業 Kunstseide のもつ意義は、生産コストが天然絹の50%であり、ドイツ人絹工業生産量の飛躍的増加にある（1913年35億kg 1920年120億kg 1927年160億kg）。イー・ゲン・ファルベンとイー・ゲン・ベムベルグ株式会社 I. G. Bemberg. A. G. の両トラストがドイツ人絹の80%を生産していた。
- ⑥ イー・ゲン・ファルベンは人造石油（石炭からオイル・ベンジン・アルコール精製）の特許権を独占しており、生産コストは天然石油の60%であり、米・英石油トラストがイー・ゲン・ファルベンに接触している。

(2) イー・ゲン・ファルベン工業株式会社と隣接産業³³⁾

- ① イー・ゲン・ファルベンと合同製鋼AGとの緊密関係は、人造石油の原料が石炭であり、石炭と鉄は隣接産業であることによる。その事例にイー・ゲン・ファルベンへのライン鉄鋼業の炭鉄の一部の所属があげられる。さらに、合同製鋼AGは、ジーメンス Siemens グループ、AEG, クルップ, クレクナー, マンネスマンとも緊密な関係を構築している。

② イー・ゲン・ファルベンとカリ・トラスト Kalitrust の連係と海外発展

この2大トラストは大部分の巨大企業と関係しており、毒ガス製造における指導的技術を保持し、さらに英・米のダイナマイト・トラスト Dynamittrust とも連係している。そしてオランダ人絹工業に参入し、スイスと英国の化学工業とも結合している。次いで英国に化学工業独占トラストの成立を強制し、アメリカ石油トラストの Standard Oil と販売金融協定を締結し、さらに英・米間の石油紛争に積極介入し、米国を支持する側にまわっていた。

(3) 海運業・カリ工業・電機工業における独占化³⁴⁾

- ① 海運業の合併により成立した【ハンブルク・アメリカ・ライン Hamburg-Amerika-Linie】はコスモス社とオーストラリア・ラインを吸収合併し、資本金1億2500万M, 所有総t150万の海運企業に発展。さらに北ドイツ・ロイド Lloyd 社を合併し海運業の独占がここに成立し、アメリカのハーリーマン・グループ Harryman-Gruppe への従属からの脱却に成功している。

32) "DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS", S. 22-27.

33) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 25-26.

34) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 17-18.

- ② レヒベルグ Rechberg とロストベルグ Rostberg とが合併し独占体のカリ・シンジケート Kalisyndikat が成立した。
- ③ 三大電機トラスト【A・E・G：ジーマンス・ハルスケ Siemens-Halske 製作所：ジーマンス・シュケルト Siemens-Schuckert 製作所】が絶対的独占内容の協定を締結している。

4 金融資本の独占化

- (1) トラストに対する銀行の決定的影響力の原因³⁵⁾として次の四つがあげられる。
 - ① トラストは一つもしくは数個の大銀行に口座を開設し、金融作業の全てを口座決済していたこと。
 - ② トラストは起債の全てを一つの銀行もしくは銀行コンソーシアム Konsortium（多数銀行の連合）を通して実施していたこと。
 - ③ ドーズ案の直後の時期には銀行が外国借款の唯一の斡旋体であったこと。
 - ④ 起債規模の拡大による債券発行は常に銀行を通してのみ可能であったこと。
- (2) 巨大独占の成立に対する銀行の決定的影響力³⁶⁾
 - ① 合同製鋼AGの借入金2億5000万Mは国内外の銀行コンソーシアムが調達銀行コンソーシアムは、ディスコント社 Discontogesellschaft, ドイツェ・バンク Deutsche Bank, ドレスデン・バンク Dresden Bank, ダルムシタット・バンク Darmstadt Bank の四大銀行により成立
 - ② 合同製鋼AGと中部ドイツ鉄鋼トラスト, オーバーシュレーゼン鉱山トラストとの提携に際してはディスコント社が指導的役割を遂行
 - ③ 全ドイツの石油権益の背後にはドイツェ・バンクが存在
イー・ゲン・ファルベンはドイツェ・バンクとの提携関係を活かしてドイツ石油業界と国際石油業界に影響を行使している。
 - ④ カリ・トラストの形成も銀行が指導
 - ⑤ 新トラスト資本に転化する企業の資本枠も銀行を通して決定
 - ⑥ 合併準備中の企業に対するトラストの絶大な影響力は、銀行もしくは銀行コンソーシアムの仲介を通して行使
 - ⑦ 銀行資本と産業資本との結合は海外事業に於ける信用輸出と新企業設立の際に特に緊密化³⁷⁾

35) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 28.

36) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 29.

37) Deutsche Bank は Siemens・グループと共同して電気・ラジオ企業をトルコに設立。
Discontogesellschaft はハリマンと共同でロシアでマンガン採掘。Dresden Bank は製鋼商會と共同でトルコに製鋼企業設立

(3) 金融寡頭制 Finanzoligarchie³⁸⁾

- ① 銀行資本と産業資本の融合（金融資本）はインフレーション終結の1924年の後に成立した。インフレーション期（「毀損された帝国主義」（1919年～1923年）には両資本の融合は進展せず、産業資本が指導権を行使していた。
- ② 金融寡頭制は、金融資本の代表者と重要産業監査役との人格的一致として具現化している。銀行資本と産業資本の融合のバロメーターは大銀行家による産業企業の監査役会 Aufsichtsrat ポストの兼任に現れており、1927年には重要産業における1324の監査役に銀行家が就任していた。³⁹⁾
- ③ 金融資本は政府の頂点のほぼ全体を掌握し、国会議員総数493名中の77名が307の企業監査役を兼任していた。⁴⁰⁾

III 「新ドイツ帝国主義」の二欠陥

帝国主義的資本主義への移行の決定的指標は独占への移行であるが⁴⁰⁾、レーニンの『帝国主義論』の五指標（脚注6参照）は現実の帝国主義国においてどのように充足されていたかに関してゴルゲは次のように分析している。⁴¹⁾

- ① 戦前においても五条件全てを満たす典型的形態の帝国主義国はアメリカを除いて稀である。
- ② ドイツ資本の独占化はイギリス資本とフランス資本を上回り、アメリカ資本のみがドイツ資本よりも強力な独占組織を展開していた。
- ③ ドイツ帝国主義には「資本輸出」と「世界分割参加」の二条件が不十分もしくは欠落している。
- ④ フランス帝国主義は重要な独占的集積を示したことは一度も無い。
- ⑤ ロシア帝国主義は資本輸入は巨大であるが資本輸出は殆ど無い。

1 「資本輸出の弱点」 „Schwäche im Kapitalexport“ ・ 「植民地基盤の欠如」 „fehlende koloniale Basis“ による新ドイツ帝国主義の経済基盤の奇形化 Verkrüppelung

この奇形はドイツ資本抑圧とドイツ帝国主義排除を目的とする戦勝国によって圧迫的にドイツに強制されたものであり、新ドイツ帝国主義（1924-28年）段階においてドイツはその克服に全力を傾注することになる。

38) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 30-32.

39) „Die Internationale“ Heft 6, 1927, Günther Reimann, „Die neue Herrschaft der Großbanken in Deutschland“

40) 「(帝国主義への発展) 過程で経済的に基本的なのは資本主義的自由競争に資本主義的独占が取って代わったことである。」(Lenin『帝国主義論』全集, 邦訳, 大月版, 第22巻, 306頁)

41) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 43-44.

(1) ドイツの弱体な資本輸出の克服

ゾルゲは資本輸出が勢力圏基盤提供と植民地領有を可能にするものであり、弱体な資本輸出の克服は植民地獲得への決定的第一歩であるとして、新ドイツ帝国主義（1924-28年）の二欠陥すなわち「資本輸出の弱点」・「植民地基盤の欠如」は資本輸出によって克服されるものとして以下のように分析している。⁴²⁾

- ① ドーズ案による毎年20億Mの支払が資本輸出を妨害している。それにも拘らずドイツ資本の再編と並行して資本輸出が自動的に増大していた。
- ② 資本輸出の源泉である新資本形成はドーズ案開始の1924年から1926年までの三年間に約160億Mにも到達している（1924年 約30億M, 1925年 約60億M, 1926年 約70億M）。⁴³⁾
- ③ 産業資本と銀行資本の統一による金融資本への発展と独占化が巨大規模で進展した。

(2) 植民地欠如 Mangel an Kolonien とドイツ資本主義の課題

ゾルゲは一方の独占基盤の高度発達と他方の資本輸出の脆弱と植民地基盤の欠如との間の矛盾が経済と政治に対して及ぼす影響を次のように分析している。⁴⁴⁾

- ① 植民地欠如はドイツが帝国主義でない証明として指摘されるが、植民地領有は帝国主義以前にも存在していた。
- ② 植民地領有の闘争が帝国主義的闘争となるのは金融資本トラストが新たな独占的原料供給地と投資地域の獲得を目指す場合である。
- ③ 攻撃的性質を持つ軍事力の欠如に関しては、今や攻撃力を持つ軍隊の復活を求める闘争が公然と開始されている。
- ④ 正規軍の国防軍はその小規模性ゆえに民間の非合法軍事組織との「同盟能力」„Bündnisfähigkeit“を持つに至っている。

2 独占の二重性⁴⁵⁾

これは「進歩的・拡張的傾向」„Tendenz zur Fortschritt und Entwicklung“ と「停滞的・腐朽的傾向」„Tendenz zur Stagnation und Zersetzung“ のことであり、ゾルゲは次のように分析している。⁴⁶⁾

- ① ドイツの生産独占化は永続的な操業停止による資本の廃棄を伴って進行する。その事例としてルール炭坑における86以上の炭坑の操業停止があげられる。
- ② 企業もしくはカルテルの操業停止設備をトラストが買収しその生産割り当て量を獲得している。

42) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 44-45.

43) „Berliner Tageblatt“ 1927. 4. 9., Reichskreditgesellschaft Report

44) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 46-47.45) Lenin『帝国主義論』, 全集, 邦訳, 大月版, 第22巻, 319頁

45) Lenin『帝国主義論』, 全集, 邦訳, 大月版, 第22巻, 319頁

46) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 47-57.

- ③ ドイツ銑鉄工業は高価格政策を優先させ、自己生産割り当て量を削減しても国際カルテルの成立を急いだ。その構図は、国際カルテルが割り当て規定量の超過 1 t につき 4 ドルの課徴金を銑鉄工業に課せば、企業はその課徴金を生産価格に上乘せし、このことは優秀な生産企業に対する自動的価格の吊り上げに連動するというものである。
- ④ 資本輸出はドイツの場合、海外からの資本輸入の再輸出 Wiederausfuhr の形態をとり、目的は中間利得としての利子獲得にあった。
- ⑤ 海外市場競争ではダンピングを実行し、その損失は国内における高価格政策によって相殺している。
- ⑥ 発明・技術改良・合理化を価格低下に連結させず利潤増大に活用した。消費者に対する低価格製品大量供給という資本主義の進歩的性質は衰退し、合理化による増大利潤の大部分は生産的消費ではなく「蕩尽」„Verprassung“ され、かくして 1926/27年のベルリンにおける享楽産業が隆盛したのである。

製品 1 単価あたりの高価格維持例

年	1914	1924	1925	1926	年	1914	1924	1925	1926
棒 鉄	98	125	135	134	カリ肥料	6.2	6.3	6.5	6.5
鑄 型 枠	100	180	197	182	タイプライター	100	140	140	140

„DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 51.

- ⑦ 高価格維持のためには市場拡大も断念した。
1924年から26年の恐慌期間においては、本来ならばカルテルの瓦解もしくは価格の自発的引き下げ政策が通常であるが高価格政策を堅持している。

3 ドイツの国内市場狭溢化⁴⁷⁾

(1) 「新ドイツ帝国主義」ならびに他の帝国主義列強の国内・国外市場の狭溢化

① 1926年「生産の発展と販売市場の狭溢化」

1913年を100とすると1925年は人口105、生産117の増加に対して国内市場は105、外国貿易は105の増加に留まっている（国際連盟世界経済会議資料）ことから明白である。

② 1913年における生産発展と市場狭溢の乖離と矛盾の行き着く先が第一次世界大戦であり、「新ドイツ帝国主義（1925年以降）」としての復活は対立の本質的激化を促進するものである。

(2) ドイツの国内市場狭溢化の三原因

- ① 独占資本は高価格維持のためには市場拡大も断念したこと。
② 賠償支払・輸出拡大・長時間低賃金労働・輸入制限による国内市場の狭溢化。

47) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 51-52.

ドイツ資本による賠償金支払は最終的には輸出を通してのみ可能であり、輸出拡大が至上命題となる。そしてドイツの完成品輸出拡大条件は国内における長時間・低賃金労働であり、輸入制限である。

- ③ これらの政策を競争国が傍観するはずはなく、保護関税によりドイツ製品は排除され、ドイツは自国における労賃と利潤の引き下げを余儀なくされ、国内市場は縮小していった。

4 「新ドイツ帝国主義（1924—28年）」と国際紛争 internationale Gegensätze

1925年以降の「新ドイツ帝国主義」の発展は他の帝国主義列強の犠牲を伴うものであり、暫定的には可能であるが、継続的発展の貫徹は新たな世界紛争の開始に直結し、経済要求貫徹の闘争は経済闘争を政治闘争に転化させざるを得ず、国家機関の介入は不可避となる。⁴⁸⁾

第一次大戦前のドイツ帝国主義はその強力な発展期の後半に国際紛争を激化させ、1925年以降のドイツ帝国主義は経済基盤拡大闘争（販売市場拡大・資本輸出増大・植民地獲得）の為にその開始期に大規模な国際紛争を激化させたと言えよう。⁴⁹⁾

よって、国際紛争の特質は「新ドイツ帝国主義」の経済基盤とその上部構造の権力政治の独自性 Eigenart によって規定されることになる。

5 英ソ対立と独英提携

ドイツが決定的に重要となる時期は全資本主義世界の中心のイギリス帝国と反帝運動の中核国ソ連との対立の段階である。それはドイツがイギリス帝国の対ソ出兵の行軍ルート上にあり、後方兵站地域 Etappengebiet に当ることによる。

次に独ソ接近の可能性であるが、ドイツ中央党の機関誌は「英国が世界政治におけるドイツの協力を根本的に拒絶し、敵視政策を遂行する限り、ドイツは独ソ接近の政策を放棄するわけにはいかない」と述べている。⁵⁰⁾ そしてこの可能性は1936年日独防共協定の後の衝撃的な1939年の独ソ不可侵協定⁵¹⁾ となって具体化したのである。

(1) 英国の対独利益二条件

- ① ドイツがフランス・ベルギー・ポーランドを攻撃できるほど強力でないこと。
- ② ドイツが東方からの攻撃に対して防衛不可能なほど無力ではないこと。⁵²⁾

(2) 英ソ対立とドイツの選択⁵³⁾

- ① ドイツは決定的時機が到来するまでの期間、英米もしくはソ連のどちらの陣営にも加

48) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 56.

49) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 97.

50) „Der Deutsche“ 1927, Stegerwald 「しかしイギリスが、世界政治におけるドイツの協力を根本的に拒否するという立場に固執する限り、そしてドイツを真っ向から敵視する政策を遂行する限り、ドイツはやはり最終的には全ヨーロッパ情勢を損なうこの状態を改善したいがために独ソ接近の原因を作る一つの政策を放棄するわけにはいかない。」

担できるフリーハンドの維持が重要である。それまでに両陣営の対独接近の動きは強まり、時間がドイツに味方する。

- ② 余程の事態の発生以外は対英提携の線は明白である。ドイツによる対ソの信用供給と友好姿勢は反ソ戦線への最終的な加入価格を吊り上げるためのものである。
- ③ ドイツが新たな帝国主義強国として再登場できるか否かの決定権はソ連ではなく英米列強にあるから、ドーゾ案の受託とロカルノ協定 Locarno-Pakt 締結によるドイツの西方志向はドイツの「新帝国主義 (1925年以降)」発展の必然的帰結 *notwendig Folge* である。
- ④ 英ソ対立の激化は「新ドイツ帝国主義」の権力政策発展の梃として有効であり、ここに新ドイツ帝国主義が国際紛争の発生と激化を期待する特質をもつ。
- ⑤ ドイツの輸出入先とドイツ資本の利益によってドイツの西方重視は明白である。ちなみに、1926年1月から9月迄のドイツの輸出総額72億6000万Mの内日本・中国・ソ連・英領インドが占める額は7億7300万Mに過ぎない。

(3) ドイツ・ポーランド関係⁵⁴⁾

- ① ポーランドはヴェルサイユ条約により誕生し、ドイツ資本主義の帝国主義的發展を阻止せんとする戦勝国の意図の産物である。言うなれば、ポーランドは回廊 *Korrido* によりドイツ領土を分断し、ドイツからダンツィヒ *Danzig* とバルト海の要港を割譲させ、オーバーシュレージェン工業地帯を剥奪している。
- ② ヴェルサイユ条約に対するドイツの抵抗の具体的な一部が対ポーランド闘争であり、ドイツによる対英全面接近の阻害要因はポーランドである。
- ③ ドイツとポーランドの相互間には輸出入制限と関税戦争 *Krieg in Taschenformat* が発生している。
- ④ ドイツの回廊返還要求に対してポーランドは東プロイセン譲渡をドイツに要請している。
- ⑤ ドイツ・ポーランド紛争は独英提携を、さらに英国の対ソ攻略へのドイツ加担を必然化するものである。

51) 独ソ不可侵協定 1939. 8. 23. 【内容】①独ソ両国の侵略の相互否定 ②第三国による両国中の一国に攻撃がなされた場合における他の一国の中立義務 ③東欧に政治変動発生の場合の独ソの勢力範囲の区画規定 (事実1週間後にポーランド侵攻し、この区画通りに分割) 【背景】ソ連はドイツによる対ソ戦開始は必至と予測し、至上課題はソ連単独の対独戦争の回避【ソ連の2つの判断】①英ソ同盟による対独戦争の可能性なし (英は1936~37年のソ連内の大粛正による対ソ不信) ②英独戦争におけるソ連の中立は不可能。よって Stalin は孤立回避の至上課題のもとに Hitler との一時的提携を決意。ドイツも東西両面戦争回避を至上課題【衝撃度】①対独宥和政策に腐心の英・仏に衝撃 ②平沼棋一郎内閣瓦解「複雑怪奇」

日独防共協定 (正式名称「共産主義インターナショナルに対する協定」) 1936. 11. 25. 【内容】①一方がソ連との開戦の場合、他方はソ連に対する有利な一切の行動は控える ②コミンテルンに関する情報交換・協議と協力【背景】①スペイン、フランスの人民戦線の成立 ②中国における抗日運動激化 ③ソ連中心のコミンテルンの強化【担当】外相 Lippentrop 駐独陸軍武官 大島浩

52) „Daily Express“ 1927. 1. 18.

53) „Deutsche Bergwerkszeitung“ 1927. 5. 8. „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 100. 「ドイツの帝国主義的要求実現の鍵は、ソ連によっては満たされず、事実上、西欧列強の手中にあり、ドーゾ案受諾以後そしてロカルノ条約以後に始まっていたドイツの西方志向は、ドイツの新帝国主義発展の必然的結果である。」

54) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 103-104.

6 植民地問題 Kolonialproblem⁵⁵⁾

英国のカイロ Kairo からケープタウン Kapstadt に至るアフリカ東半分全域の植民地貫通線は旧ドイツ領東アフリカの英領編入によって成立したものである。そしてフランス領はアフリカ北西部全域を包括している。従って、英・仏とも旧ドイツ領植民地の返還意思は全く無しとゾルゲは断じている。

そして、凄まじい植民地獲得渴望の日本・イタリアに対するドイツの競争⁵⁶⁾、即ち、ドイツの植民地獲得と世界再分割戦争は、植民地列強による植民地の拡大・販売市場の狭溢化・巨大市場中国における排外運動の高揚・旧植民地の同時的工業化などの諸要素の中で、世界分割の現状を転覆させる新たな戦争による新たな世界分割に直結するものであった。

とどのつまり、ドイツの再軍備と植民地獲得は英ソ対立の利用と関連しており、ドイツによる対ソ・対中進出による植民地問題の解決政策こそが、英・仏列強の植民地を侵害せず、さらに全ての帝国主義列強にとっても最善の方策ということになる。

7 戦争問題

戦争勃発の危険に関してゾルゲは、新たな戦争の発生は自明的なものであり、帝国主義国家が存在する限り戦争は起こるものであるとして、そのことを次の2点で強調している。⁵⁷⁾

- ① 統計にも見て取れるほどの主要列強の軍備増強があり、国際情勢は極度に緊張しており、イギリスによる対ソ敵対と包囲網は中国への干渉ともなって現れ、さらにイタリアとフランスはバルカン紛争に干渉している。
- ② 独自の強国としての覇権を目指す新ドイツ帝国主義も他の帝国主義と同じく多くの紛争を引き起こし、発生している紛争を一段と激化させるに違いない

それでは、ドイツによる戦争参加の場合選択肢とはいかなるものであろうか？ ゾルゲは (a) 帝国主義列強間の戦争への参加 (b) 対中国干渉への参加 (c) 帝国主義国の側に立った反ソ闘争への参加という三つの選択肢を示し⁵⁸⁾、独占ブルジョアジーが戦争に向けて大衆を獲得する可能性について論述し、そしてそこから効果的な反戦プロパガンダを導き出している。⁵⁹⁾

55) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 105-107.

56) „Spiegel“ 1927, Heft 10, 4. S. 451. 「もし国際連盟においてドイツ・イタリア・日本などがウィルソンの名誉にかけた誓約保証の『全ての植民地問題の公正な調整』 „gerechte Regelung aller kolonialen Fragen“ の即時実施を強力に要請すれば国連も返答に窮しよう」

57) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 177.

58) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 177-178.

59) 既に Lenin は1922年のハーグ平和会議へのソビエト代表団の任務について述べている。：「ことに、「祖国擁護」が避けられない問題となって、勤労者の圧倒的多数がこの問題をブルジョアジーに有利に解決するであろうという事情の意義を説明しなければならない。」(レーニン全集、邦訳、大月版、第33巻、467頁)

この重要性は1914年8月11日におけるドイツはおろか世界最大の労働者政党SPD⁶⁰⁾によるドイツ戦時予算案⁶¹⁾への賛成投票という衝撃的事件によっても十分に理解される。さらにゴルゲは対ソ虚偽キャンペーンが戦争の準備として展開されていることを次の三点によって示している。⁶²⁾

- ① ソ連邦に対する戦争の危険に対して最大の関心を向けなければならない。理由は、国際ブルジョアジーがこの戦争準備に用いる方法は全く新しいものだからである。⁶³⁾
- ② 全ての世論機関はブルジョアジーの支配下に置かれているのだから、例えばアジア的ボルシェヴィズムに対するヨーロッパ文明の防衛というようなスローガンの下に現在準備されている扇動が、またロシアの労働者と農民の悲惨な状況という虚偽のニュースの反復が生む影響は異常に大きい。⁶⁴⁾
- ③ 必要なことは、このような虚偽のキャンペーンが実は戦争への直接の準備の一つであることを暴露することである。例えばイギリスにおいて、中国の暴徒によるイギリス居留民の生命と財産への襲撃という虚偽の報道によって多数の労働党員を含む最も広範な大衆を中国への軍隊派遣反対の闘争から引き離すことに成功している事実がある。

ここで言えることは、ロシア・ボルシェヴィズムに対する「虚偽のニュース」の事実化がゴルゲのような国際共産主義運動家を翻弄することになったことは明白であろう。

60) 1914年におけるSPDの党員数は108万5千、帝国議会議員110名（第2位は中央党の91名）、得票率34.8%、得票数425万、領邦議会議員数220名、市町村議員9115名、管理資産2億4百万M、党機関誌94紙、「Vorwärts」の年間売上高79万M・予約購読者150万人、SPD系労組Freie Gewerkschaften組合員数255万。帝国議会議員の中の36名が組合出身者。(G. Fülberth/J.Harrer., „Die deutsche Sozialdemokratie 1890-1933“, 1974, S. 80ff.)

61) Eugen Prager, „Geschichte der U. S. P. D.“, 1922, S. 26, 44-46, 53-55, 81-84.

①1914年8月11日提出の第1回戦争予算案(50億M)では、8月4日のSPD議員大会において、賛成78名；反対14名に分裂。しかし、党議拘束による全員一致議案投票が決定された。このことが、ドイツ帝国戦争予算に対するSPD全議員賛成の衝撃的印象を全世界に与えることになった。

②1914年12月2日の第2回戦争予算案(50億M)では、SPD議員大会において反対が17名に増加。Liebknechtは党議拘束を無視して帝国議会で反対投票。

③1915年3月20日の第3回戦争予算案(100億M)では、SPD議員大会において賛成69名；反対36名に分裂。帝国議会においては30名が棄権し退場。そしてLiebknechtとRühleの2名が反対投票。

④1915年8月20日の第4回戦争予算案(100億M)では、帝国議会においては32名が棄権し退場。4名が反対投票。

⑤1915年12月29日の第5回戦争予算案(100億M)では、帝国議会においては22名が棄権し退場。20名が反対投票。SPD内の亀裂は決定的なものとなる。

62) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 171-172.

63) ドイツの財界と軍部の戦争目的は1914年9月9日発表のBethman Hollwegの戦争目的綱領「目的は、東欧と西欧に対するドイツ帝国の保全である。その為にフランスを弱体化させて強国としての地位を奪い、ロシアをドイツ国境からできる化ざり押し退けて、非ロシア人に対するロシア人の支配権を打破すること」(Fritz Fischer, a.a.O., S.122.)

64) Arthur Rosenberg, „Entstehung der Weimarer Republik“, 1930, S. 67-68. そもそもMarxもEngelsも戦争と祖国防衛の問題に対して一定の有効回答を残してはいない。Zarismusは欧州反動派の総憲兵であるとする、ロシアに対して抱くドイツ労働運動界の伝統的観念のみが生き残っている。「1890年代にEngelsは…欧州大戦について…ドイツの労働者はドイツの勝利の為に自己の戦争目的をもって…ロシアの労働者はロシア革命のために…」と想定していた。

かくして戦争阻止闘争への考察が重要度を増してくる。ゾルゲは帝国主義列強間の戦争は中国とソ連に対する戦争のように激烈なものとはならないとしたうえで、⁶⁵⁾ その闘争の二つのスローガンを明確にしている。⁶⁶⁾ (傍線はゾルゲによる)

- ① 实际的反戦闘争は、帝国主義的祖国防衛とか国際連盟とか、民主主義とかのスローガンの下ではなく、もっぱら中国ならびにロシアの革命擁護というスローガンの下においてのみ行い得る：中国革命ならびにロシア革命を擁護しよう！

Verteidigung der chinesischen und der russischen Revolution !

- ② 戦争勃発後には、帝国主義戦争の内戦への転化というスローガンの下においてのみ、この戦争阻止闘争を行い得る。：帝国主義戦争を国内戦に転化せよ！

Umwandlung des imperialistischen Kriegs in den Bürgerkrieg !

さらにゾルゲは労働者による戦争阻止は幻想であるとし、次のように述べている。

「帝国主義諸国間の戦争の場合、また対ソ帝国主義戦争の場合ですら、大衆運動によって、戦争の勃発 Kriegsausbruch を阻止したり、ゼネラル・ストライキによって、開始された戦争 vollzogener Kriegsausbruch に対応したりすることは、極めて困難である。成功例は革命労働運動の歴史にない。しかし、最初からのこの闘争手段の否定は誤りである。戦争勃発前における我々の活動は最終目標、すなわち資本家支配の打倒に向けられなければならない。」⁶⁷⁾ (傍線はゾルゲによる)

つぎに、敗戦国ドイツに対する戦勝国の政策目標の限界とドイツ復活の必然性の流れであるが、ヴェルサイユ条約の重点は、かつて敗戦国に適用された中で最も苛酷な目標設定をドイツに適用する事であったことは前述のとおりである。ところがそこには大きな限界が含まれていた。このことを Sorge は次のように記述している。

「しかし、『患者』 „Patient“ は、いかなる場合にも死なせてはならなかった。なぜならば、もし、その『患者』が死ぬようなことになると、ウラディオストック Wladi-wostok からケルン Köln に至るまでのソビエト化の危機が非常に大きなものになるからである。」⁶⁸⁾

ともあれ、一つの政治要素としてのドイツの抹殺は、英・仏の対立に直接的決着（直接戦争）をつけさせることになる。英・仏ともそれは回避したいところであろう。となると、どの程度までのドイツの弱体化が英・仏に望まれたのであろうか？ ゾルゲは次のように分析している。

「ドイツ資本は非常に高度に発達していたので、その帝国主義的復活を阻止するためには、ドイツに対して採られるべき瀉血療法 Aderlaß は非常に並みはずれた、永続的なものでなければならなかった。その意味は、戦勝諸国はドイツから重要工業地域を剥奪し、ドイ

65) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 185.

66) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 190.

67) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 186.

68) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 59.

ツ工業の設備投資に回らないように出来る限り多くドイツの蓄積を収奪すること、さらにドイツの軍事的権力装置を国内政治の革命運動を鎮圧できる程度のものにまで縮小Niederhaltung することである。」⁶⁹⁾

しかし、帝国主義は資本主義列強の偶然的政策ではなく、資本主義発展の一定段階における現象形態であるから、戦勝諸国のこのような目標設定の誤りは明白である。すなわち、資本主義国家としての、また資本主義的な経済統一としてのドイツの根絶は不可能である。となるとドイツ帝国主義の復活は不可避なものとして開始されよう。

それではドイツの対ソ参戦は阻止され得るのか否か？ さらにドイツによる紛争激化は必然的であるのか否か？ この問題に関してゴルゲは、「英ソ紛争が急速に激化した場合、ドイツがソ連の側に立ち、対ソ参戦が阻止される可能性は、非常に僅かしかない」とし、その可能性の条件は、「一つの紛争に代わって別の紛争が登場して来ること、そして英独資本間の経済対立が激化し、政治対立にまで至るといふこと以外にない」としている。⁷⁰⁾

さらにゴルゲは、大戦中にアメリカが行ったように、戦争の国家間の対決を他に押しつけ、他国間の闘争から利益のみを引き出そうとするドイツの企ては、「紛争が国際的な性格を帯びつつある時、子供じみた企てとなる」とし、「ドイツの地理上の位置は、英ソ紛争発生に際しては、ドイツを渦中に巻き込み易くするものであるから、ドイツの企ては、一層、紛争を促進させるものにならざるを得ない。そして新ドイツ帝国主義の登場は新たな紛争をも発生させざるを得ない」としている。⁷¹⁾

ここで、ヨーロッパ諸国の民族解放戦争に関するレーニンとゴルゲの主張を対比してみよう。

- (1) レーニン：ヨーロッパ諸国は、その資本主義的基盤にもかかわらず、民族的に抑圧される可能性がある。その場合、これら資本主義諸国側からの民族解放闘争さえも、例え現実的でないにしても行われる可能性がある。⁷²⁾
- (2) ゴルゲ：ヨーロッパ諸国が民族解放戦争を行うことは、それ自体、資本主義が高度に発達したこれら諸国がその帝国主義的基盤を完全に喪失するか、あるいは、この基盤がまだなお存在しているとしても、その政策において帝国主義を貫徹することができなくなるかのどちらかだろう。実際この状態が、ドイツ資本主義にとっては事実上、暫くの間（1919年から1923年まで）存在していたのである。⁷³⁾ つまり、「毀損された帝国主義」である。

69) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 59f.

70) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 113.

71) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 114.

72) レーニン全集、邦訳、大月版、第22巻、316頁

73) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 167, 225. 「暫くの間（1919年から1923年まで）」における弱体な資本輸出の克服にはドイツ資本の再編と植民地獲得が決定的に重要であり、ドーゾ案による年間20億Mの支払にもかかわらず、産業資本と銀行資本の統一による金融資本への発展と独占化が巨大規模で進展した。そして独占基盤の高度な発達・資本輸出の脆弱・植民地基盤の欠如という相互矛盾が植民地領有の闘争を帝国主義戦争に発展させたのである。

8 「新ドイツ帝国主義」の経済的基盤

レーニン『帝国主義論』の解説は原則論の展開であり、あらゆる帝国主義は各々の特殊性を有するものであることは言うまでもない。1924年から1928年の新ドイツ帝国主義は、その時代のドイツ的帝国主義なのである。ゾルゲは次の四点を指摘している。⁷⁴⁾

- ① 1924年から1928年のドイツ資本の独占化はイギリスやフランスの資本の独占化を著しく凌駕。ただ米国資本だけがドイツ資本よりも強大な独占組織を所有。
- ② 資本輸出と世界分割への参加という残りの二条件は不十分もしくはゼロ。
- ③ 新ドイツ帝国主義は、ある部分は極めて異常に発展、他の部分は、その毀損の故に発展が極めて不十分。
- ④ ドイツの生産における独占化の動きの中でも、とくに二つの集積が群を抜いている。それは合同製鋼株式会社 Vereinigten Stahlwerke と染料トラスト Farbentrust である。前者は最も反動的なものであり、後者はそれ程に反動的でない。

つぎに、「新ドイツ帝国主義（1927年段階）」における経済的実権と軍事的政治的実権の乖離に目をむけてみると、この期のドイツの外交政策がこの乖離を埋めるべく、ドイツ帝国主義の完全復活 Wiederkomplettierung を目指し、最も熾烈な闘争を展開しており、植民地の再獲得、ドイツの軍事力に対する拘束の打破、ヨーロッパでの喪失領土 verlorene Gebiete の奪還を目指していたことが明白になる。

そしてゾルゲは、このような闘争の一つ一つをでき得る限り綿密に専門知識をもって分析している。そして「新ドイツ帝国主義」の評価に際しては、帝国主義的性格（経済的実権）と帝国主義的権力地位（軍事的政治的実権）という両概念を厳格に区別しなければならず、後者はその復活が始められたところに過ぎず貧弱であるとした。⁷⁵⁾

さらに、ベルサイユ条約によるドイツ軍事力の制限のもつ意義を次のように四点指摘している。⁷⁶⁾

- ① ドイツは今日攻撃的性格を持つ軍事力を所持していない。⁷⁷⁾
- ② だが、攻撃能力をもつ軍隊の復活を求める闘争が再び公然と開始されている。
- ③ 小規模なドイツ国軍さえもが非合法に形成された民間軍事組織と結びつくことによ

74) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 43-48.

75) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 92.

76) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 86-95.

77) Versailler Friedensvertrag は、一般的兵役義務を廃止し、志願兵制を強制。陸軍10万・海軍1万5千に制限。空軍・潜水艦・重砲・タンク・毒ガスの所有禁止。参謀本部・陸大の設置禁止。しかし、この間に国防軍の別動体としての国防軍退役将校からなる鉄兜団 Stahlhelm が結成されている。軍事力強化の方法としてはソ連赤軍と結託し、赤軍将校の教育はドイツが引き受け、ドイツの新兵器製造工場をソ連領内に設置し国防軍将校はそこに出張して新兵器の使用を研究し習得していた。

て『同盟能力』„Bündnisfähigkeit“を持つまでに至っている。⁷⁸⁾

- ④ 「新ドイツ帝国主義」の脆弱性は、もはや帝国主義の性格 Charakter とは関係せず、単に帝国主義の権力要素としてのドイツの重要性との関係に過ぎない。

Gewicht Deutschlands als imperialistischen Machtfaktor

(傍線はSorgeによる)

9 資本家三区分・小ブルジョア階級四区分・社会民主主義者三区分

1927年段階においてゴルゲは資本家を三区分している。⁷⁹⁾

- ① 独占金融資本（「化学トラスト Chemietrust」と「鉄鋼トラスト Stahltrust」）の対立する両翼独占資本の最も反動的な部分は「石炭・鉱石・鉄鋼の翼」である。反帝国主義闘争において「化学の翼」との同盟は可能であり、化学トラストは金融資本の最も純粋な形態の代表である。
- ② 独占金融資本の大農的・資本主義的な翼 großagrarische-kapitalistischer Flügel
- ③ 加工業の非独占的翼 nicht monopolischer Flügel der weiterverarbeitenden Industrie

特徴は極端な目的喪失、腐敗そして脆弱性。この翼は、シュトレゼマン Stresemann の左から始まり、社会民主党にまで伸長している。これは、明白な侵略的帝国主義の翼ではなく、ある部分は帝国主義に対して反対する。しかし、中流階級と似ていて、広範な経済基盤をもちあわせていない。⁸⁰⁾

ここでは「加工業の非独占的な翼」に言及しておかなければならない。この著書の出版の直後（1928年）に増大してきたファシズムに対する闘争の中で、ゴルゲのこのような分析は殆ど無視されてきた。しかし、やがて、この第三のグループのある部分、これは民需品の生産と分

78) ここにドイツ国家の帝国主義的性格の特徴があり、それはドイツ国防軍 Reichswehr の特質と関係している。ふりかえ見れば、1918年11月帝制崩壊後も参謀将校団と将軍は団結して多数残留しており、彼等は各地に反共義勇軍 Freikorps を結成し各地の左翼政権の鎮圧に動いていた。この種の武装集団は1919年には総数約40万に達しており、それが改編され正規のドイツ国防軍となったのである。

しかし、反共義勇軍のうち一揆的暗殺団の傾向を持ち、反逆的な中産階級出身の前線将校と下士官に指導された極右一派は国防軍から排除され、秘密の民間軍事団体やナチスのSAに入り、別派の軍事勢力を形成した。残りの新たな国防軍は Hans von Seeckt 将軍（大戦中は第11軍参謀長。Versaille Friedens-konferenz 陸軍代表。1920年国防軍内の帝政派による Kapp Putsh には中立にして形勢展望。1926年大将。1932～35年蒋介石の軍事顧問）を中心に旧参謀将校団を中核とする貴族的合理的分子によって構成されており、このことは1932年の将校4000人中800人が貴族によって占められていたことから明白であろう。この国防軍は、政府の軍部に対する干渉を排除しており、ナチスは最後まで軍の実権を掌握できなかったのである。

79) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 117.

80) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 120-121.

81) コミンテルン第7回大会（1935年7月～8月）人民戦線戦術 Front Populaire 決定。76国代表510名。書記長に G.M.Demi-tolov を選出。Demitolov テーゼ「ファシズムは金融資本の最も反動的な分子の暴力的独裁であり、緊急課題は広範な反ファシズム人民戦線の結成」（G.M.Demitolov, „La Terza Internationale“）

配に従事している独占資本の一部でもあるが、これを味方に獲得しようとする努力は、1935年のコミンテルン第七回世界大会⁸¹⁾の路線となって現れる。いわゆる、「全てのブルジョア政党がただちにファシストなのではない」とする人民戦線戦術⁸²⁾である。

しかし、1939年8月の独ソ不可侵条約によってコミンテルンは、ファシズムに対する攻撃さえも停止せざるを得なくなり、ソ連の外交政策に明白に従属するに至る。そして1941年6月のドイツの対ソ開戦を契機としてコミンテルンは1943年5月に解散した。かくして、第一インターは論争により、第二インターは戦争により、第三インターは同盟により解散したといえよう。さらに国民国家を原理的に否定するコミンテルンとロシア民族共産主義との軋轢はゾルゲとスターリンとの関係でもあったのである。

ところで、ゾルゲは小ブルジョア階級を四区分している。⁸³⁾

① 没落した小ブルジョア階級部分

公然として反資本主義的さらに反帝国主義的な陣営である。

例として、知識人層、プロレタリア化した職員そして『精神労働者』すなわち、芸術家や著述家などの階層があげられる。

② 援助を受けて救済されている小規模商業、残存している家屋財産と復興しつつある職業部門などにすがりついている部分徹底して資本主義的そして国民的な陣営に位置してはいるが、相当に動揺している階層である。

③ 技術者、営業担当職、管理職などとして大資本の生産過程に一段と強力に取り込まれている部分厳として民族的 stramm national であり、帝国主義に利益を感じている階層である。

④ 全くその生活の基盤を失った連中から構成

あらゆる点でファシスト的なイデオロギーにしがみつ়くことによつてのみ自己崩壊を阻止出来る階層である。

さてこそ、ゾルゲの見解によると社会民主主義者は決して真の戦争反対主義者ではない。その理由の一に、彼らが帝国主義列強の反ソ戦争に全く反対していないことを挙げている。

「社会主義、つまり社会主義インターナショナルは、今だかつて戦争の阻止を成し遂げたことがない。そして今日のプロレタリアートの国際連帯観念が、1914年の頃よりも、より強力な反戦防御装置になっているとは、真面目な社会主義者ならば誰も主張しまい。多くの社会主義団体では、やはり、国家的思想 der nationale Gedanke がかつて無かったほど強力な役割を演じているのである。」⁸⁴⁾

82) 人民戦線戦術(1934~39年)従来の統一戦線は共産党・社会民主主義政党・労働組合により結成。人民戦線はファシズムに抵抗して平和と民主主義を擁護する全勢力と協調し、その前提として「全てのブルジョア政党がただちにファシストなのではない」(W. Pieck)とされた。

具体的には①1934年7月 フランスの社会党・共産党の協定 ②1934年9月 国際連盟へのソ連加入 ③1935年5月 仏ソ相互援助条約 ④1936年1月フランス人民連合 ⑤Rassemblement Populaire 成立 ⑥1936年7月 スペイン人民戦線内閣成立 ⑦1936年11月の日独防共協定に対する1937年8月の中ソ不可侵条約成立 ⑧中国における国共合作

83) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 122-123.

それではドイツの戦争遂行体制は社会主義政党にどのような強力な役割求めたのだろうか？
 いうまでもなく、労働者階級は国家税収の最大の負担者であり、兵士の最大供給源である。つまり、労働者階級の支持なくしては戦争の遂行は不可能である。その労働者階級を束ねる役割がドイツの社会主義政党であり、最大政党でもあるSPDに求められた。その見返り条件は政府によるSPD差別政策の撤回であった。⁸⁵⁾ 第二の役割は、世界最大の社会主義政党SPDがその国際性を利用して中立諸国のドイツ支持を取り付けることにあった。⁸⁶⁾

とはいえ、ゴルゲは社会民主主義者を次の三つに区分している。⁸⁷⁾

① 古い改良主義的方向に相応するものであり、もはや帝国主義の問題を見ようとし
 ないもの。

② 帝国主義という事実を認めるが、しかし軍国主義と常に結び付くような特定の種類の
 政策のみを帝国主義に見ており、単なる嘲罵の対象となるもの。

例えば、ヴェルス Wels, シャイデマン Scheidemann, クリスピン Crispian などの
 ような「実務家」„Praktiker“である。この場合、面白い光景が生じる。個々の世界政
 治上の事件において、ある国がある時には帝国主義的なもの、別の時には平和の砦であ
 ると解釈されることになる。

③ 第二インター内の左派の「指導者たち」„Köpfe“

これらは帝国主義に関して一方向ではない。つまり、第二インターの公式の政策には
 反対だが、ソ連も含めて至るところに帝国主義的な傾向を嗅ぎつけるのである。

例えば、ドイツとポーランドとの間の関税紛争の場合には、ある種の帝国主義的な企
 でのこれ以上の進行に警告を発したりはするけれども、このことから何一つ結論を出そ
 うとはしないのである。⁸⁸⁾

結局その任務は、帝国主義反対派として警告を発することによって帝国主義との同盟
 に本能的に反対する左派労働者が第二インターから脱退するのを思い留まらせることに
 ある。

84) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 183.

85) Eugen Prager, „Geschichte der U. S. P. D.“, a. a. O., 26. 「SPDが戦争予算案を承認すれば、政府は法
 外的存在の如き、SPD処遇を廃止しよう。SPDの立場は強化されるのだ。SPDはこの機会を逃しては
 ならない」

その見返り条件については①軍部によるSPD地方支部に対する排斥措置の撤回 ②SPD系の居酒屋
 への軍人出入の許可 ③SPD文献の軍隊内配布の許可 ④ SPD機関誌 „Vorwärts“ の駅販売の許可
 ⑤国鉄職員、高等学校教員へのSPD党員の採用と任命の許可 ⑥労組に対する現行訴訟の撤回と無期
 延期 ⑦反SPD全国同盟の解散 (村瀬興雄『ドイツ現代史』東大出版, 1970年, 209頁)

86) Eugen Prager, a. a. O., 53. Südekum は、政府の委託を受けて、ドイツ政府に有利な世論の形成を目
 的としてルーマニアを訪問

87) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 155-157.

88) ドイツ権益と密接な関係を有する具体的事項に対してUSPDは賛成を示していない。「USPDは植民地
 の返還。そして、ベルギー、セルビア、ポーランド、フィンランド、アイルランド、エジプト、トリ
 ポリ、モロッコ、インド、チベット、朝鮮の自治権付与には賛成したが、Elsaß-Lothringen の住民、
 ドイツ領内ポーランド人、Nordschleswig のデンマーク人、オーストリア帝国内の諸民族の自治権の
 獲得に対しては賛成しなかった。」(Hermann Heidegger, „Die deutsche Sozialdemokratie undder
 nationale Staat 1870-1920.“, 1956, S. 42.)

ところでゾルゲは、ヒルファーディング Hilferding あるいはブライトシャイト Breitscheid から多く引用しているが、これは、SPDの労働運動そのものの分析のためではなく、SPDの指導層と出版物がドイツ帝国主義の後ろ盾となっていることを証明するためであり、次の三点を指摘している。

- ① ヒルファーディングが独占資本を戦争の「危険中和剤」Krisenmilderer であると表現していること⁸⁹⁾
- ② ブライトシャイトがドイツの軍備増強を要求していること⁹⁰⁾
- ③ 労働組合機関誌 „Die Arbeit“ がドイツ植民地の獲得を支持していること⁹¹⁾

8 鉄兜党の分析

鉄兜党 Stahlhelm は1918年に創設され、第一次世界大戦参加者の組織である。1927年当時、影響力はナチスよりも大きかった。労働者階級に対する独占資本の操作の試みとしての面から、ゾルゲは鉄兜党を次のように分析している。⁹²⁾ この分析は、間もなく鉄兜党に代わって登場する「ナチス」„Nationalsozialisten“ との比較検証の面からも興味深い。

- ① ファシスト諸団体の最大のものである鉄兜党のオルガナイザーは金融資本である。
- ② 鉄兜党の特色は二重性格にある。金融資本の国内政治の親衛兵 Garde であると共に、ドイツ国防軍の副次的組織 Nebenorganisation でもある。
- ③ 鉄兜党の強固な中核はファシスト的小ブルジョア階層 das faschistische Kleinbürgertum によって占拠されている。
- ④ あらゆる手段を使って労働者階級への浸透を企画する。
- ⑤ 鉄兜党に組み入れられた労働者は、金融資本の指導 Führung に従属せざるを得なくなると同時に、イデオロギーに関しては小ブルジョア層の影響の下に継続的に曝らされることになる。
- ⑥ 鉄兜党の組織基盤は企業体 Betriebe にも設置されている。
共産党から組織面に関して非常に多くことを学んで来た企業家は、これらの教訓を企業体に適用し、その企業内部で労働者そのもの間に「白と赤との対立」„Ge-gensatz zwischen weiß und rot“ を即座に引き起こし亀裂を拡大させ、調停しがたい型にする。
- ⑦ 鉄兜党は、企業体内であらゆる階級組織に対して決定的闘争を展開する。
- ⑧ 鉄兜党の闘争イデオロギーは、純帝国主義的、白衛軍的 weißgardistisch, 反革命的そして社会民主党から借用の労資協調的なものである。いわば最新の帝国主義的方法の圧巻である。

89) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 169.

90) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 169.

91) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 169.

92) „DER NEUE DEUTSCHE IMPERIALISMUS“, S. 169.

- ⑨ 金融資本によって何らかの方法で組織化されている全ての勢力は、鉄兜党の中に統合される。ここでは国防軍とさらに進んでブルジョア連合政府との結び付きが形成される。そして鉄兜党は、この政府の「無党派的」„parteilose“ に組織された大衆組織となる。
- ⑩ 鉄兜党は、確かにいまだ「カイゼルの寵愛」„Kaiser liebt,“ を受けるところまでには至っていないが、今のところは金融資本よりもましなものがいないので差し当りは金融資本の寵愛を受けている、いわば親衛隊 Garde である。

小 括

ゴルゲはドイツ帝国主義を「新鮮な帝国主義」（1919年以前）と「毀損された帝国主義」（1919-23年：ベルサイユ条約によるドイツ弱体化実施期間、インフレーションを基盤とする独占形成期間）さらに「新ドイツ帝国主義」（1924-28年：相対的安定・ドーズ案開始・工業生産の戦前水準回復・金本位制・経済好況の期間）の三段階に区分し、「新ドイツ帝国主義」の経済基盤・外交政策・階級・国内政策・SPD・戦争阻止闘争の諸問題を考察対象としている。

そして戦勝国によって強制された「新ドイツ帝国主義」における植民地の欠如と弱体な資本輸輸出という二欠陥の克服は、米国型トラストの発達をその独占化の特質とし、米国と並ぶ鉄鋼・化学・金融の各独占資本の発展を成し遂げたドイツにとり必然の流れであり、国際紛争を激化させ、戦争を不可避とするものであった。

ドイツ独占資本はその経済基盤の拡大により不可避となる大規模な国際紛争激化とそれに備えるための強力な再軍備を不可欠としたが、ベルサイユ条約はドイツに攻撃的軍事力の欠如もしくは小規模性を強制しており、再軍備は民間の非合法軍事組織の発達さらにはそれと正規軍との同盟によって進められていった。ゴルゲはこの過程を鉄兜党の分析によって描いている。この流れはナチスの発展にまで到達しなければならないものであった。

さらに外交は独英提携コスト低下のための独ソ連係姿勢の呈示という複雑な様相を示し、西欧列強との対決回避による残された最善政策としての対ソ・対中進出による植民地問題の解決政策として展開されていく。

そして資本主義体制内政党への転換を以ってドイツ労働者の利益の拡大化を目指したSPDは分派闘争を伴いつつも、ドイツの戦争国家への助走に優れた機能を果たした。⁹³⁾

ゴルゲ曰く、「大衆労働運動による戦争勃発阻止の成功例は歴史にない…。しからずんば、ドイツ帝国主義による対ソ・対中進出戦争の阻止のために残された道は中国革命とロシア革命の擁護となる。そして、そのためにゴルゲは『新ドイツ帝国主義』で余す処無く見せてくれた優秀な分析能力を駆使し、独ソ戦争を母方の祖国ロシアの勝利に導く情報をモスクワに送信し続けた。そしてその活動は身が獄に繋がれるに至りてし後に止んだ。

93) Sceidemann 「党の政策」報告：ドイツ国民の過半を構成するSPDはそれが故に国民の基本義務たる祖国防衛を拒否できない…イギリスとフランスの社会主義政党も自国の戦争予算に賛成している。…少数が多数に従うのは民主政治のルールである」 Hafid Krause, a. a. O., S. 68-69.

カウツキー Kautsky 曰く、「民主主義なき社会主義は最も抑圧的な束縛体制となり、社会主義なき民主主義は労働者階級を経済的従属物たらしめ続ける…」⁹⁴⁾そしてこのことは、革命70年にしてのソ連邦の、成立40年にしてのドイツ民主共和国の崩壊過程によって示された。

付記

『新ドイツ帝国主義』の翻訳を石堂清倫先生より割り当てられたのは1989年春の頃であった。名にし負う社会思想家の御指名とあり、全魂を傾けた。当時の約十年間の私の研究課題は「SPDと戦争；USPDと第三インター」「オーストリア社会民主党と諸民族問題」などであり、『新ドイツ帝国主義』の政治学部分と重なっていた。

ところがである。『新ドイツ帝国主義』の経済学部分の重厚な分析に私は圧倒され、私の脆弱な研究内容を思い知った。その恥を雪ぎたく私は経済学を研鑽することさらに十年にして、『旧東独の企業システムと鉄鋼業』によって京都大学経済学博士号を授与された。『新ドイツ帝国主義』においてはドイツ資本主義における鉄鋼業が扱われているが、私はドイツ社会主義における鉄鋼業を研究の対象とした。そしてゾルゲがモスクワへの暗号打電に使用した統計年鑑 „STATISTISCHES JAHRBUCH“ を私は研究資料に使用した。

ゾルゲがハムブルグ大学から賃金政策に関する論文によって政治学博士（評点是最優等）を授与されたのは彼24才の時であり、私はその二倍の年月を必要とした。二十世紀の巨人と市井の浅学との相違である。非才の役割分担はゾルゲの学術研究成果の分析発表に留められる。そしてゾルゲの活劇面の喧伝は活動写真が最適であり、2004年に『スパイ・ゾルゲ』として映写された。私はそれを石堂清倫先生ゆかりの旧第四高等学校の所在地で当時の暗雲を現在のものとしつつ観賞した。

2004年11月1日

94) „Neue Zeit“ Heft. 35. 1916-17., Karl Kautsky, „Die Aussichten der russischen Revolution“.